

令和8年 第12回総務経済常任委員会会議録

令和8年9月9日 議員控室

○事件

(1) 協議事項

要請のあった意見書の取り扱いについて

(2) その他

○出席委員（8名）

委員長 牧 野 仁 君
黒 島 竹 満 君
三 澤 公 雄 君
横 田 喜世志 君

副委員長 安 藤 辰 行 君
宮 本 雅 晴 君
赤 井 睦 美 君
水 野 博 美 君

○欠席委員（0名）

○出席委員外議員（5名）

斎 藤 實 君
倉 地 清 子 君
議長 大久保 建 一 君

寺 田 広 樹 君
小 西 雄 一 君

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君
議事係長 千 代 貴 大 君

事務局次長 藤 原 悟 史 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（牧野 仁君） それでは、第12回総務経済常任委員会を開催いたします。
皆さん、決算委員会ご苦勞様でした。

◎ 事件

【政策推進課職員入室】

○委員長（牧野 仁君） 今日はですね、協議事項が一点ございまして、要請のあった意見書の取り扱いについて、皆さんにご相談したいと思います。

北海道道路整備促進協会および北海道治水砂防海岸事業促進同盟より、別紙のとおり、国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書の提出について、要請が来ております。

これについて、総務経済常任委員会として要請内容に賛同し、発委として意見書を上程してよろしいか皆さんにお諮りしたいと思います。どうでしょう。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） 私から委員長報告させていただきます。よろしくお願いします。

あと、その他で決算委員会ですね、消防費の部分で調査について、令和7年度の救急出動件数1,033件うち、搬送件数が995件と。これについて、八雲、落部、熊石別の件数内訳書を資料として提出要求について、総務委員会として要求するかどうか、皆さんに諮りたいと思います。どうでしょう。要求しますか。

（何か言う声あり）

○委員長（牧野 仁君） 三澤さんか。誰かな。

○委員（安藤辰行君） いい、出してもらえ。

○委員（宮本雅晴君） もらったほうがいい。

○委員長（牧野 仁君） はい、わかりました。じゃあ、いただくということで。

○委員（赤井睦美君） でも、ごめんなさい。反対ではないけれど、もらってどうすんだろう。ただもらうだけだったら、個人的でいいんじゃないですか。

○委員（安藤辰行君） なんかに使うならあれだけどき。

○委員（三澤公雄君） 常任委員会かい。

○委員（安藤辰行君） 三澤さんが欲しいっていう。

○委員（三澤公雄君） みんなは興味ないの、そういうことは。

○委員（宮本雅晴君） もらったほうがいいんでない。

○委員長（牧野 仁君） 多いですね。はい。もらったほうがいいというのは多数決で決めるまでもないと思う。4、5人いますんで。

○委員（赤井睦美君） いやいや、ごめんなさい。仕組みで質問します。

○委員長（牧野 仁君） 仕組み。

○委員（赤井睦美君） 仕組み。委員会として資料請求した場合、委員会としてそれをどうするっていうのがないと、ただもらうだけだったら変でないですか。どうなんですか。私よくわからないですけど。

○議会事務局長（野口義人） あくまで所管調査なんで、ただ数字だけもらうだけでなく、その後の見解っていうのは必ず必要だと思いますんで。

○委員長（牧野 仁君） あ、はい。

○議会事務局長（野口義人） その理由づけを整理していただければ。

○委員長（牧野 仁君） はい。理由付けをつけないといけない。

○委員（三澤公雄君） まあ、資料請求した自分がそのまず数字を分析して、こういった問題をとか、こういった課題があるんじゃないですかって問題提起に使わせてもらいますんで。

○委員長（牧野 仁君） はい、そうですか。そういう整理で。

○委員（三澤公雄君） それで、皆さんとお話し合うきっかけにしたい。

○委員長（牧野 仁君） わかりました。

○委員（黒島竹満君） 委員会で。

○委員（三澤公雄君） 委員会でもらったら、そういうふうに使ひ。

○委員長（牧野 仁君） 扱いにします。

わかりました。今、三澤さんからご意見ありましたとおり、これを分析していろいろ調べたいことがあるそうなので、それでもらって調査したい。よろしいでしょうか。

○委員（水野博美君） よくわからない。

○委員（赤井睦美君） その三澤さんの気持ちは分かるの。委員長として、委員会として、それを扱うんですかって。

○委員長（牧野 仁君） はい。私もちょっと落部も入るんで、熊石も入るのでちょっと調べて調査したい。参考にしたいです。

○委員（赤井睦美君） 何のための参考なのか、よくわからない。

○委員（水野博美君） 庁舎建てるための。古いから。

○委員（赤井睦美君） 例えば、熊石 10 件、落部 20 件、八雲 30 件で出てきたとしてどうするんですか。その数字は。

○委員（三澤公雄君） 答弁の中でもさ、複数の電話があったとき、どうしてるのかといったら、場合によっては、熊石から応援でやってるって言ったでしょう。そういった実態をまた言葉だけじゃなくて数字で見て、どれくらい時間がかかっているのかとか、本当にそれが行って間に合ってるのかだとかが数字の中で見て、見れなかったらまたそれによって質問するし。

熊石支所も総合支所とくっつけて建て直すみたいなことも町長喋ってたけど、俺の一般質問の中で。そういった消防絡みの話はいろいろあるし。そして、人員も足りない。定員に足りてないと。そういったことは質疑で補ったわけだしさ。

俺は数字を持って今の疑問をまた調べたいと思うし、調べたことによって問題提起する上で仲間、個人じゃなくて今度は委員会でってことになれば、この委員会で資料を請求している意味にもつながると思ってるんで。

○委員（赤井睦美君） そこは消防の充実を図るための資料提供っていう意味で言うんでいいんだけど、ただ落部も熊石も入ってるから見たいってそれだけだったらさ。委員会としては弱いんじゃないかと思って委員長に。

○委員長（牧野 仁君） はい、わかりました。

○委員（安藤辰行君） 今言った内容で。

○委員長（牧野 仁君） 今の三澤さんの説明で皆さんも賛成して。

○委員（赤井睦美君） 委員長の気持ちを聞いたら。

（何か言う声あり）

○委員（安藤辰行君） 委員長も同じ気持ち。

○委員長（牧野 仁君） 同じ気持ちでやりますんで、お願いします。

○議長（大久保建一君） 多分三澤さんの質問の意味っていうのは、何年か前のバス事故のように大量のね、死傷者が出たような一時に救急体制が間に合ってるんですかとか、そういうことが趣旨だと思うんですよね。

だから、応援体制だとか、そういうもので十分なのか、今の救急体制が十分なのかということを検証したいのであれば、そういう事例がどれくらいあるかとか、いつそういうことがあったとかってそういうことを個別で聞いたほうが意味あるものになるんじゃないかなとは思いますが。

だから、そういうことをぜひ委員会で話し合いたいというのであれば、委員会でそういう資料を求めたほうがより深い議論になるんじゃないかなとは思いますが。

○委員長（牧野 仁君） あ、そういう事例あったほうがいい。大型事故あったらいい。確かに私も落部に住んでいて救急車がいなくて、結構長い時間いなくてあるんですよ。その時、消防署に誰も職員がいなくてあるんですよ。3人しかいないからということで、ゼロなんです。

（何か言う声あり）

○委員長（牧野 仁君） だから、全員出勤しちゃうから。

○委員（安藤辰行君） 本部でとれるのか。

○委員長（牧野 仁君） 本部でとれる。そういうことはあるの、ちょこちょこ。

○委員（三澤公雄君） だから、今回どんな数字まで用意してくるか分からないけど、今、大久保さんも言ったような事故と照らし合わせた日時とか出動回数がぴったり合うようなものが出てくれば、そうやって議論が深まるけど、そういった観点で見た時の足りない資料なら追加もしなきゃいけない。

そういう意味では、委員会で請求したほうが後々深掘りしやすい。個人で聞くっていう力の部分では、前千葉議長もおっしゃってましたが、地方議員では、町会議員では個人の調査の権限はなくて、委員会の権限がメインだというふうにおっしゃってましたから、委員会が中心で資料を取ってもらったほうが後々、消防が拒むとは思えませんが。

○委員長（牧野 仁君） まあ、いろんな角度から議員が。まあ、さっき三澤さんが言ったとおり、定数が足りないような気がするんですよ。

落部の場合は、ドクターヘリも停まる基地はあるんですけど、そういった観点から消防職員も誰もいなかったと。それが何人かの町民から聞いてますよ。

○委員（赤井睦美君） だから、そういうことがわかる資料。

○委員（安藤辰行君） ドクターヘリ、どこさ停まんの。小学校か。

○委員長（牧野 仁君） 小学校でなくて。

○委員（宮本雅晴君） 今、多目的グラウンドよ。入沢の。

○委員長（牧野 仁君） ちょっと遠くなったんですよ。

○委員（黒島竹満君） いずれにしてもあれでねえの。委員会で資料を請求して、出てきたものを見ながら委員会でまだ議論していけばいい話だから。

○委員（赤井睦美君） 資料請求するけど、いまね、それぞれおっしゃったように、そういう調査ができる内容の資料じゃないと、ただ出動件数だけもらっても足りなくなるから、そこに補足して資料を。

○委員長（牧野 仁君） いいですか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） じゃあ、お願いします。

あと他にございませんか。なければ、これで閉会します。ありがとうございます。

〔閉会 午前 11 時 41 分〕